

ヘルプマーク

豊玉中学校 一年 中島 駿太郎

皆さんはヘルプマークを知っていますか。

僕は今年の夏、初めてヘルプマークを知り、
そして使うことにしました。赤に白のガラス
のハートが描かれているヘルプマーク、僕の
ヘルプマークの裏には母がこづ書いてくれた
した。

「自閉症」という障害があります。大きな音や
声、火が苦手です。知らない人と話すのも苦

手で声も小さいです。困っていたら連絡くだ
さい。そして最後に母の電話番号が書いてあ
ります。

まずヘルプマークとはどういうものなのか
という点、外見からは分かりにくい病気や障
害をもつ人が、援助や声かけを必要としてい
ることを示すマークです。このマークをつけ
ている人を見かけたら、電車でバスで席をゆ
ずったり、駅やお店で困っていたら「何かお
困りですか」とか「手伝えることはあります

か^ら、^し 仕事を^かけ、返答^がない場合はマーク
の裏に書^かれていることを見^たらわかるよう
にな^っていきます。

「これは僕^が今年初^めでこのマークを使^う
ことにな^ったのかという、今年の夏休みに
家族を旅行^に行くことにな^ったからです。
普段は住^みなれた場所、地域^で生活し、僕^の
ことを知^っている人に困^まれて安心^して過^ご
すことが出来^ていきます。しかし、知らない場
所^に行くとい^ふことは新しい発見^や楽^{しみ}がい

出^がのくれるのはもちろんですが、僕^にと^っ
て苦^手な場面^にいつどこでそ^がく^らいするかも
分からな^いとい^うこと^です。「もしも」と悪^い
想像^をするととても怖^いです。外^に出^ること
もやめ^るようになります。しかし、自分^が一人^で
困^ってしま^ったとき恐^ろしくな^ったま^までしま^っ
て言葉^も出^なくな^ったとき、このヘルプマ
ーク^があれば、知らない誰^かに助^けてもら^え
ることが出来^ます。そう考えると、苦^手なこと
から逃^げずにや^りし^んじしてみ^ようかと思^っ

ます。

対馬はあまり見るこゝがないヘルプマーク
ですが、だからに皆さんに知ってほしいと
思いこの作業を書きました。

少助けてもらえたの僕にも出来るこゝが沢
山あります。まだまだこれから色々な経験
をして、いつか僕も誰かの助けになりたいで
す。